

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:10 事業名:世界文化遺産景観形成支援事業

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
室長・山本 修	第2回アドバイザー会議でご質問いただいた、市町村における類似の事業の実施状況について追加の資料を提出させていただく。 忍野村、山中湖村、富士河口湖町の3町村で景観に関する建築物等への類似の補助金交付事業を実施しており、棲み分けについては、景観上重要な地区については県の事業を採用し、それ以外は村の事業で行うので、重複しては受けられないような仕組みになっている。

再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー	なし		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:10 事業名:世界文化遺産景観形成支援事業

アドバイザー	評価区分	評価内容
小口アドバイザー	「要改善」	<p>他にない取組としてユネスコから高く評価されている、ということが山梨県にとって素晴らしいことと思われる。当然今後も景観の維持・改善は必要なので、この事業の終了後、新たな事業に着手する際に、進め方の見直しを行ってほしい。</p> <p>こうした事業の本来のあり方は、対象とする案件をリストアップし一つ一つ改善していくものである。次期の事業はこのようなステップを踏んでほしい。</p> <p>スタートの初年度は、各市町村から景観上相応しくない場所を一斉に優先順位を付けてリストアップしてもらおう。このリストを元にヒアリングを実施し、全体の優先順位を付ける。このように進めると、対象箇所が相当数出てくると思われるので、県の予算全体とリスト先を見比べながら、事業の終期を決めて予算額を決定することになると思う。全体の予算・補助率等も含めて、全面的な見直しをしていただきたい。</p> <p>同時に、新築等に対しても景観上の配慮が行われなければならないので、関係業者や住民への理解を得る努力もお願いしたい。市町村の補助制度もあるとのことなので、関連市町村との足並みを揃えられるような調整、アドバイスをしてほしい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>平成30年度の終期設定がされているので、この事業が終了したところで5年間の事業の検証をやっていただきたい。</p> <p>景観の統一性は必要だが、あまりに画一的な色使いや外見を採用していくと、統一性を優先するあまりおもしろみのない街並みになりかねないと思われる。</p> <p>費用との兼ね合いもあるが、複数のアドバイザーの共同作業などを検討してほしい。</p> <p>市町村との連携により進める事業なので、時間や手間のかかる作業だと思うが、じっくり着実に景観の改善を進めていくことが必要だと感じた。</p>
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>ユネスコは現在進めている取組を高く評価している。また、現在の取組に加えて屋外広告物事業については、事業者が県の指導のもと当該事業に協力したことについてメッセージを出すことを許可してはどうか。これをきっかけに、イコモスの評価書で指摘された山中湖や河口湖など観光客に人気のある場所については、そこを揃って修景することが出来れば、話題となって観光にプラスになると思われる。いろいろな可能性を含めて考えてほしい。</p>